

西洋銅版画から見た江戸後期の日本美術
—歌川豊春とパニーニの絵画作品からの考察—

越前ふくい美術館
学芸員 諏訪 俊昭
suwa.tosiaki@gmail.com

This paper points out that the original woodblock print of Utagawa Toyoharu's (1735-1814) "Dutch Franciscan Monastery" is based on William Austin's (1721-1820) "Ruins of Ancient Rome" (1756). It is possible that Austin's works was created by combining paintings by the Italian artist Giovanni Paolo Panini (1691-1765) and sold as his works.

本稿は、歌川豊春(1735-1814) 作の版画《阿蘭陀フランスカノ伽藍之図》を取り上げ、江戸時代に制作されたこれらの洋風作品の原図について新しい解釈を提起するものである。本稿で取り上げる多くの作品は古代遺跡を主題にした西洋複製銅版画が原図となっており、その系譜を辿るとイタリアで古代ローマを題材にして活躍した画家パニーニ(Giovanni Paolo Panini 1691-1765)の作品に行き着く。パニーニの作品を西洋銅版画家オースティンが複製もしくは組み合わせた経緯を考察するとともに、古代ローマという主題の需要と日本の洋風作品の関係について検証する必要性を提起したい。

ヨーロッパで制作された銅版画（眼鏡絵を含む）には、日本に輸入されるまでいくつかの経路があったと指摘されている⁽¹⁾。豊春や田善の時代では徳川吉宗の洋書輸入制限緩和策によって、多くの洋書と共に銅版画が国内に持ち込まれるようになった⁽²⁾。それらの銅版画は 2 種類に分けられる。芸術性が強調された通常の銅版画と「覗き眼鏡」と呼ばれる装置に入れて錯覚効果を楽しむことに特化した眼鏡絵である。後者は通常の銅版画と違い、遠近法がより強調される。「覗き眼鏡」には、反転させて見る物があり、文字や絵が反転して描かれている専用の物もある⁽³⁾。このことを念頭において、まずは豊春の版画を検討する（図 1 参照）。本稿で掲載した図像は細かいため見づらい箇所がある。取り上げる作品のほとんどはオンライン上でアーカイブ公開され、拡大して見ることができる。そのため参照していただければ幸いである。

1 伝 歌川豊春《阿蘭陀フランスカノ伽藍之図》

本稿で取りあげるのは、歌川豊春の《阿蘭陀フランスカノ伽藍之図》[図 1](#)である⁴。この作品は文化・文政期（1804-1830）にかけて制作されたローマのフォロ・ロマーノの風景を描いた浮絵⁽⁵⁾である。松井英男はこの作品に特徴的な刷りの痕跡があることを指摘し、一番早い物で安永(1772-1780)の後期の作品とも推定している⁽⁶⁾。定説では豊春作とされるが、落款がないため、他者の作ではないかという説も出ている⁽⁷⁾。豊春は西洋絵画の多く

を模写し、その技術を学んでいた。豊春が忠実に遠近法を浮絵の中に取り入れたことにより、戸外の海や山の描写が可能になった。歌川派の祖となる豊春の技法は広重や北斎が描く浮世絵風景画にも用いられる⁽⁸⁾。先行研究によれば、《阿蘭陀フランスカノ伽藍之図》はオランダのフローニンゲン美術館が所蔵している作品と同じ銅版画の眼鏡絵が日本に渡り、豊春が写したと指摘される。その原画の出版元は、ロンドンのセイヤー社 (Robert Sayer) である⁽⁹⁾。この会社はロンドンのフリート・ストリート (Golden Buck opposite Fetter Lane, Fleet Street) にあった。セイヤー社は 1753 年までには、202 枚の眼鏡絵を販売しているほどの大きな出版会社である⁽¹⁰⁾。豊春の《阿蘭陀フランスカノ伽藍之図》(図 1、図 2) の原図と推定されているロバート・セイヤー社版《古代ローマの遺跡》 (*Ruins of Ancient Rome*) は、イギリスの版画家オースティン (William Austin 1721-1820) が 1756 年に制作したものと同一であると考えられる (図 3)⁽¹¹⁾。このオースティンの複製銅版画は 1778 年にミドルトン (Charles Theodore Middleton 生没年不詳) が編纂した『新地理学』 (*A new and complete system of geography*) の解説銅版画としても使われている⁽¹²⁾。1756 年に制作したオースティンの版をそのまま模倣しているが、空の描写については少し修正されている。豊春の《阿蘭陀フランスカノ伽藍之図》は、空の描写の違いによって、出版元、異版、そして、豊春以外の作品だとも推測が行われているが⁽¹³⁾、定説では版元が 2 つあり、それぞれ西村屋と山本屋とされている⁽¹⁴⁾。他の版として、町田国際版画美術館⁽¹⁵⁾ やケルンの東亜美術館⁽¹⁶⁾ などが所蔵している。色分けに複数の違いがあることから、この作品が版を重ねたことが分かる。

豊春の作品の原図であるオースティンの版画は何をもとにしているのでしょうか。てがかりとして、オースティンの銅版画には、「G.P. パニーニ画／オースティン刻」とあるので⁽¹⁷⁾、パニーニの可能性について考える必要がある。つまり、イタリア出身の画家であり、ローマにあるフランス・アカデミーの教授だったパニーニの奇想画 (*Capriccio*) を複製したことになる。豊春の版画における先行研究でも、パニーニの絵画作品を集めて制作されたという指摘がある¹⁸。つまりこの原画はパニーニの作品をおおもとにしているのだが、実際にパニーニの原画を忠実に複製したかどうかについては疑問が残る。なぜなら、パニーニ直筆の作品から同一の作品を管見の限り、特定できていないからである⁽¹⁹⁾。彼はイギリス人顧客のために多数の作品を描いていたので、原画がまだ発見されていない可能性もある。しかし、コロッセウムを「マルケルス劇場 (*Marcellus Theatre*)」と表記するなど重大な間違いをローマに在住する彼が犯したとは考えられない⁽²⁰⁾。したがって、豊春の原図は、パニーニではなく、彼の作品を模刻したとするオースティン自身の作品である可能性が出てくる。オースティンはイタリアを訪れたことがないため、コロッセウムの誤記もありうるだろう。そこから推測すると、彼はパニーニがイギリスで高い人気を博している事を考慮し、自作をパニーニ作と称して販売した可能性が高い。豊春の版画のおおもとをたどれば、パニーニの作品にたどり着くということは先行研究において正しいが、これに

については、パニーニの油絵を制作者オースティンが考に参考することができたのかという疑問が生じるかもしれない。パニーニの作品は銅版画による複製や模刻され、肉筆を見なくとも参考できた可能性が高い。たとえば、パニーニの作品を版画家ミュラー (Johann Sebastian Müller 1715-1792 頃) が複製銅版画をロンドンで制作している(図 3、図 4)。これらの中にはオースティンが制作する以前に刷られている作品もある⁽²¹⁾。

オースティンの版画はパニーニによる 3 枚の絵画作品と類似した構成要素を持つ。先述した豊春の先行研究では詳しく論じられている箇所は管見の限り見出せなかったので、豊春の版画とパニーニの作品(直筆や複製銅版画)を詳しく比較整理したい。まずミュラーが複製したパニーニ作の《ローマ遺跡のカプリッチョ》(*Capriccio of Roman Ruins with the Temple of Antoninus and...*)(図 4)⁽²²⁾である。この作品は、グランド・ツアーで 1735 年にイタリアを訪れたコーク(George Lewis Coke 1715—1750)がイギリスに持ち帰った作品であり、後にミュラーが複製銅版画を出版した⁽²³⁾。この作品とオースティンの版画(図 2)では左側にある 2 つの神殿、つまり、コンコルディア神殿とアントニヌスとファウスティーナ神殿⁽²⁴⁾については構成がほぼ同一である。また、その前にある、建物の残骸のひび割れ具合も似ている。アントニヌスとファウスティーナ神殿の左側の木も同一であるが、神殿については、少し修復が加えられている。次に、奥にあるティトゥスの凱旋門とマクセンティウスのバシリカは、図 4 と図 2 において左右が逆に配置される。2 枚目の作品は、《ローマのカプリッチョ》(*Roman Capriccio: The Colosseum and Other Monuments*)(図 5)である。この作品からは、トラヤヌス記念柱とコロッセウムが図 2 において反転して利用されている。オースティンの作品は、まるで、上記 2 枚のカプリッチョを反転させ、張り合わせて作られたかのようである。

本稿で比較するなか図 2 の中央に描かれているマルクス・アウレリウス帝騎馬像については、どのパニーニの作品から借用されているのかは特定できなかった。パニーニは、マルクス・アウレリウス帝騎馬像を同じ角度で多数の作品に描き込んでいるからである(図 6)。いずれにしても騎馬像の図はオースティンの身近にあるパニーニの作品を用いたものであろう。当作品以外でも彼はパニーニの作品を何点か版画にしているが、同じようにパニーニの直筆が特定できなかった《ハドリアヌス墓廟 (*The Mausoleum of Hadrian: Temple of Peace...*)》⁽²⁵⁾などがある⁽²⁶⁾。それゆえに、豊春の原画とされるオースティンの作品について以下の可能性が高い。パニーニ作の作品をオースティンが組み合わせて制作したもの、もしくは、未発見のパニーニの作品をオースティンが模刻したものである。少なくともピラネージの作品が原図ではないと推論しうる。最後にこの作品の重要な問題は制作時期である。松井は、豊春の作品を安永(1772—1780)の後期の作と推定するが、ミドルトンが解説銅版画として利用したのは 1778 年と推定されるので、豊春はこれとほぼ同時期に製作していることになる。つまり、日本に舶来した複製銅版画は決して時代遅れの物ではなく、ヨーロッパの嗜好を日本にいながらほぼリアルタイムに入手できたことを意味する。

2.まとめにかえて

豊春の版画制作などを考えるうえで、ヨーロッパにおける「古代」人気を理解することは重要である。銅版画はある程度売れる見込みがなければ制作されることはない。それは、ヨーロッパにおいて古代ローマをモチーフにした作品には人気があった。代ローマの街並みや 18 世紀のローマの街並みをモチーフにした作品も数作られた。これらのテーマを手掛ける美術家たちの中心人物としてパニーニがいた。オースティンは、彼の作品などを組み合わせて作品を制作したのである。

西洋銅版画は主にオランダ経由で日本に輸入された。本稿では、それらの作品が制作されるヨーロッパの一つの拠点として、ロンドンが重要であったことに注目したが、江戸時代の人もイギリスは一目置いていたようである。銅版画師の司馬江漢（1747-1818）は、『和蘭通舶』においてイギリスの銅版画について以下のように述べている。

和蘭及ヒ彼諸国ヲ吾日本支那ヨリ呼ンテ西洋ト云其中諳尼利亜ヲ以テ第一トス：和蘭奇巧ノ部ニ銅刻ノ法式ヲ載テ世ノ好ム者ニ授ケ示サン此法彼国ニテモ近來巧ミシト云諳尼利亜ノ都「ロンドン」ノ人鍛冶始テ孝作ス⁽²⁷⁾

このように、彼はイギリスの銅版画が優れていたと評しているが、西洋においても同様の評価であった。そこには品質と大きさという 2 つの理由がある。ロンドンのフリート・ストリートで制作された眼鏡絵は、他の都市の物と違って描写方法から識別できるほど高品質であった。それは出版が活発であった 18 世紀のロンドンでは、版画の制作者に積極的に投資をすることが可能だったからである⁽²⁸⁾。また、当時ロンドンで制作された多くの眼鏡絵は 2 つの標準サイズの約 12×18 インチ（約 30×45 センチ）で、装置に入れる時に適したサイズであった。この 2 つの理由によってロンドンの銅版画は、ヨーロッパの中で流通しやすくなった。同時に、模製と海賊版が容易にできるため、各都市においても複製されたのである。今回、調査した銅版画もこの理由によって多数の模製が制作されたのであろう。しかし、海賊版が多数あったとしても、眼鏡絵は高価であったとされる。ロンドンの場合、1 枚の眼鏡絵は白黒の場合 1 シリング、彩色したものは 2 シリングとされ、その価格は当時の労働者階層における一日の平均賃金よりも高く、庶民には手が出るものではなかった⁽²⁹⁾。ピラネージの複製版画の場合は、10 枚セットで 13 シリング、着色したものは 1 ポンド 6 シリングの価格である⁽³⁰⁾。今回取り上げた、オースティンの作品集も 10 枚セットで、白黒 10 シリング、彩色したものは 1 ポンドであった⁽³¹⁾。ローマの古代遺跡の主題を描いた眼鏡絵は大きいサイズの版画が多いため、このような大判で高価な銅版画を制作できるほど、ヨーロッパにおいて古代ローマ遺跡を主題とする作品には需要があり、日本でも、オランダを通して購入するほど目新しい物であった。主に眼鏡絵は富裕階級を

対象にしていたが、ヨーロッパの庶民はまったく見ることはできないわけではなく、見世物師が安い料金で 20 世紀初頭まで見せていた⁽³²⁾。眼鏡絵は装置を入れて立体視的に見せるため、遠近法を強調した構図が使われる。そのため、これらの原図には建築家による遠近法を意識した透視図の習作や風景画が使われることが多い。本稿でも建築家で遠近法を教えていたパニーニの絵画がオースティンに模倣されたことを観てきた。本稿で検証したように、西洋美術と日本美術の双方の研究成果を照らし合わせることで、不明確な箇所が明らかになる可能性がある。なによりもヨーロッパにおける「古代ローマ」の主題と豊春の作品との関係を研究することは重要であろう。それらを意識した上での日本の洋風作品の原図調査が求められる。

- 1 岡泰正『めがね絵新考』(筑摩書房、1992)、 pp. 144-145。
- 2 小林忠、大久保純一『浮世絵の鑑賞基礎知識』(至文堂、1994)、 pp. 67-68。
- 3 岡泰正、前掲書(注(1))、 pp. 78-79。
- 4 Dutch Franciscan Monastery スミソニアン博物館のリンク
<https://artsandculture.google.com/asset/dutch-franciscan-monastery-artist-attributed-to-utagawa-toyoharu/gAG4cjUNkW1kPw> (Accessed 02 April 2022)
- 5 浮絵とは西洋の透視遠近法を用いて距離感を強調した絵の総称を示す。「くぼみ絵」とも呼ばれた。(小林忠、前掲書(注(2)))、 p. 66。
- 6 松井英男『浮世絵の見方』(誠文堂新光社、2012)、 pp. 96—97。
- 7 野村文乃「歌川豊春による浮世絵の革新—その背景と意義に関する考察」『浮世絵芸術』(国際浮世絵学会、2014)、 p.167。
- 8 小林忠、大久保純一、前掲書(注(2))、 pp. 66-67。
- 9 岡泰正「浮世絵に描かれたフォロ・ロマーノ」セーラ・トンプソン、永田生慈 監修、日本経済新聞社文化事業部 編『ボストン美術館浮世絵名品展—錦絵の黄金時代—清長、歌麿、写楽—図録』(日本経済新聞社、2010)、 pp. s182-183。
- 10 C. J. カルデンバッハ著・岡泰正訳「ヨーロッパにおける眼鏡絵について」岡泰正『めがね絵新考』(筑摩書房、1992)、 p. 246。
- 11 *Ruins of Ancient Rome. Ruines De L'Ancienne Rome.* (www.britishmuseum.org/research/collection_online/collection_object_details.aspx?objectId=1600105&partId=1&people=112366&peopleA=112366-2-23&page=1 Accessed 02 April 2022.)
- 12 Charles Theodore Middleton, *A new and complete system of geography*, vol. 2, London, 1777, pp. 392-393. (ESTC : T125494) この本を含め、本稿で参照した18世紀の印刷物は注記があるもの以外は ECOO (Eighteen Century Collections Online) に掲載されているものを利用した。
- 13 野村文乃、前掲論文(注(7))、 p. 167。
- 14 小林忠、大久保純一『浮世絵の鑑賞基礎知識』(至文堂、1994)、 p. 210。
- 15 渋谷区立松濤美術館 編『終わりのむこうへ— 廃墟の美術史』(渋谷区立松濤美術館、2018)、 pp. 55、122。
- 16 榑崎宗重監修『秘蔵浮世絵大観 別巻』(講談社、1987)、 pp. 215-216。
- 17 John Wilton-Ely, *Giovanni Battista Piranesi: The Complete Etchings . 1&2.* San Francisco: Wofsy, 1994., Ficacci, Luigi. *Piranesi. The Complete Etchings.* 2016. catalogue raisonné.
- 18 *A Confused Japanese Print: Toyoharu's Dutch Views* (<https://museum.maidstone.gov.uk/confused-japanese-print-toyoharus-dutch-views/> accessed 02 April 2022)
- 19 "G.P. Pannini pinx[it]. / Austin sculptt."
- 20 Ferdinando Arisi, *Gian Paolo Panini.* Piacenza: Cassa di Risparmio, 1961.
- 21 マルケルス劇場の外観は3層構造、コロッセウムの外観は4層構造という違いがある。(青柳正規『古代都市ローマ』(中央公論美術出版社、1992) pp. 301-302、309)
- 22 ミュラーは1744-1747年頃に同1の作品を印刷しており、4つの連作が存在する。(De Baecque & Associés, *Catalogue de la vente Estampes - Dessins - Tableaux anciens et du XIX siècle - Mobilier et Objet d'art chez*, 2019, p. 5, no. 7-11; (https://catalogue.gazette-drouot.com/pdf/266/96679/Debaecque_27032019_bd.pdf?id=96679&cp=266 Accessed 02 April 2022.) 図16と同じ図像には"*Published...1745*"と左側に記述されている。(https://www.debaecque.fr/lot/96679/10009990 Accessed 02 April 2022.)
- 23 この複製銅版画と酷似した作品をヒルドヤード(Sir Robert Hildyard 1716-1781)という人物がパニーニに注文している。その直筆はサザビーズのサイトで閲覧できる。("A View of the Campo Vaccino with the Temple of Jupiter Stator, the Arch of Titus, the Colosseum, the Basilica of Maxentius, the Temple of Antoninus and... ." *Panini Pannini, Gio | Old Master Paintings | Sotheby's* n08712lot5vpb4en, 27 Jan. 2011, (<http://www.sothebys.com/en/auctions/ecatalogue/2011/important-old-master-paintings-sculpture-n08712/lot.181.html> Accessed 02 April 2022.)
- 24 Ibid.; National Galleries of Scotland, (<https://www.nationalgalleries.org/art-and-artists/36123/0%3Foverlay%3Ddownload> Accessed 02 April 2022.)
- 25 「2.アントニヌスとファウスティーナ神殿 (*Temple of Antonius and Faustina*)」の描写表現は、パニーニの作品にもみられる。実際の神殿は14世紀後半には大理石は剥ぎ取られ、後に破風と屋根は取り除かれ、1602年にはバロック様式のファサード装飾が加えられた。(G. J. Gorski and James E. Packer, *The Roman Forum: A Reconstruction and Architectural Guide* (Cambridge University Press, 2015), pp. 69-70 及び、青柳正規、前掲書(注(21))、 pp. 90-92)

- 2 6 *Ruins of Ancient Rome. Ruines De L'Ancienne Rome.*
(www.britishmuseum.org/research/collection_online/collection_object_details.aspx?objectId=3219705&partId=1&people=112366&peoA=112366-2-23&page=1 Accessed 02 April 2022.) Carington Bowles, *Carington Bowles's New and Enlarged Catalogue of Useful and Accurate Maps, Charts, and Plans ; ...*, 1784, pp. 74-75. (ETSC No. T181179) というカタログリストの p. 75、7 番に記載されている題名を表記した。
- 2 7 この作品も Panini, *A capriccio of Hadrian's mausoleum, the Temple...*, 1736 と Panini, *An architectural capriccio with figures among Roman ruins...c. 1750* を合わせたものとする。
- 2 8 司馬江漢編『和蘭通舶』2 冊(合 1 冊)、文化 2(1805)、001-004 葉(国立国会図書館所蔵)。
- 2 9 ロンドンでは、1557 年に書籍出版業組合が結成され、外国人業者の活動を禁止したことにより、英国人が権益を守れたことも投資ができる状況にあった。(高宮利行「写本・印刷と出版」安東伸介他編『イギリスの生活と文化事典』、研究社出版、1982、p. 539)
- 3 0 1 ポンド=20 シリング、1 シリング=12 ペンス。
- 3 1 Carington Bowles, *Carington Bowles's New and Enlarged Catalogue of Useful and Accurate Maps, Charts, and Plans ; ...*, 1784, pp. 74-75. (ETSC No. T181179)
- 3 2 Robert Sayer and John Bennett (Firm), *Sayer and Bennett's Enlarged Catalogue of New and Valuable Prints, ... Also Useful and Correct Maps and Charts; Likewise Books of Architecture, Views of Antiquity, Drawing and Copy Books, &C. &C.* 1775, pp. 42-43. (ETSC No. N034450) Google Books にも公開されている。
- 3 3 C. J. カルデンバッハ、前掲書(注(10)) p. 244-253。

図版出典 ※図 1 は画像利用制限があるため、図像が拡大表示できるリンクを記載した。

- 図 1 [Attributed to Utagawa Toyoharu, Dutch Franciscan Monastery, Edo period, early 19th century, Woodblock print, 25.6 × 37.3 cm, National Museum of Asian Art, © Smithsonian Institution\(No. S2007.7\).](https://artsandculture.google.com/asset/dutch-franciscan-monastery-artist-attributed-to-utagawa-toyoharu/gAG4cjUNkWikPw)
<https://artsandculture.google.com/asset/dutch-franciscan-monastery-artist-attributed-to-utagawa-toyoharu/gAG4cjUNkWikPw> (accessed 02 April 2022)
- 図 2 William Austin, Published by: Robert Sayer, *Ruins of Ancient Rome*, 1756, prints, etching, 27.4×38.1cm, British Museum(No. 1949,1008.175), (CC BY-NC-SA 4.0).
- 図 3 Johann Sebastian Müller, After: Giovanni Paolo Pannini, *Imaginary view of Roman ruins in a landscape; from left to right...*1753, London, etching, Height: 323 × 454 cm, British Museum(No. 1949,1008.191), (CC BY-NC-SA 4.0).
- 図 4 Johann Sebastian Muller After:Giovanni Paolo Pannini, *Capriccio of Roman Ruins with the Temple of Antoninus and Faustina and the Arch of Titus, with the Palatine on the right*, 1775, Etching on paper, 48.50 × 62.00 cm, National Galleries of Scotland(No. P 5730), (CC-BY-NC 3.0 License).
- 図 5 Giovanni Paolo Panini (Italian, 1691-1765), *Roman Capriccio: The Colosseum and Other Monuments*, oil on canvas, 1735, 38-3/4 × 52-1/2 in. Indianapolis Museum of Art at Newfields, Michigan(No. 50.6), public domain.

☒ 6 Giovanni Paolo Panini, *Fantasy View with the Pantheon and other Monuments of Ancient Rome*, 1737, Oil on canvas, 98.9 × 137.4 cm, The Museum of Fine Arts, Houston (No. 61.62), The Samuel H. Kress Collection, public domain.

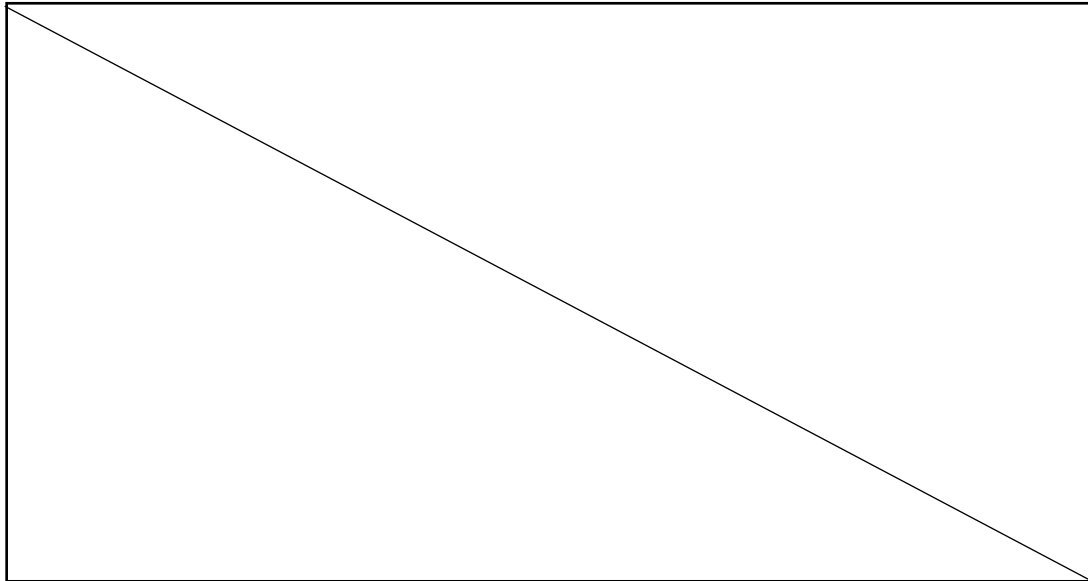


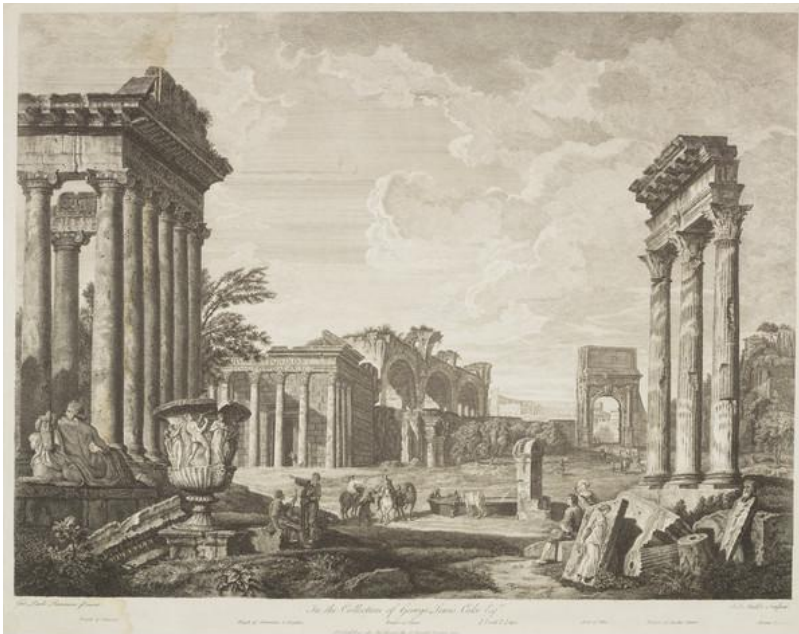
図1 伝 歌川豊春《阿蘭陀フランスカノ伽藍之図》山本屋版（19世紀初頭） スミソニアン博物館 (https://www.si.edu/object/dutch-franciscan-monastery:fsg_S2007.7 accessed 02 April 2022)



図2 オースティン作 《古代ローマの遺跡》（1756）ブリティッシュ・ミュージアム



図3 パニーニ作、ミュラー刻《ローマ遺跡の空想画》(1753)ブリティッシュ・ミュージアム



NATIONAL GALLERIES SCOTLAND

Ruins of Ancient Rome with the Temple of Peace, 1775, multiple artists

Creative Commons - CC by NC

図4 パニーニ作、ミュラー刻《ローマ遺跡のカプリッチョ》(1735)スコットランド・ナショナル・ギャラリー



図5 パニーニ作《ローマのカプリッチョ》(1735) インディアナポリス美術館



図6 パニーニ作《ローマのカプリッチョ》(1737) ヒューストン美術館

表 1 伝 歌川豊春 《阿蘭陀フランスカノ伽藍之図》までの系譜

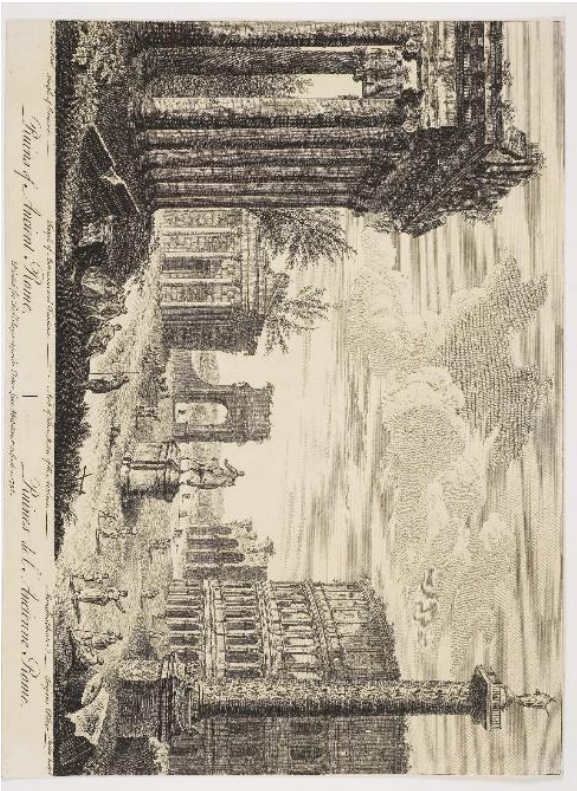


図 5 →

← 図 6



図 2



← 図 6

伝 歌川豊春 《阿蘭陀フランスカノ伽藍之図》

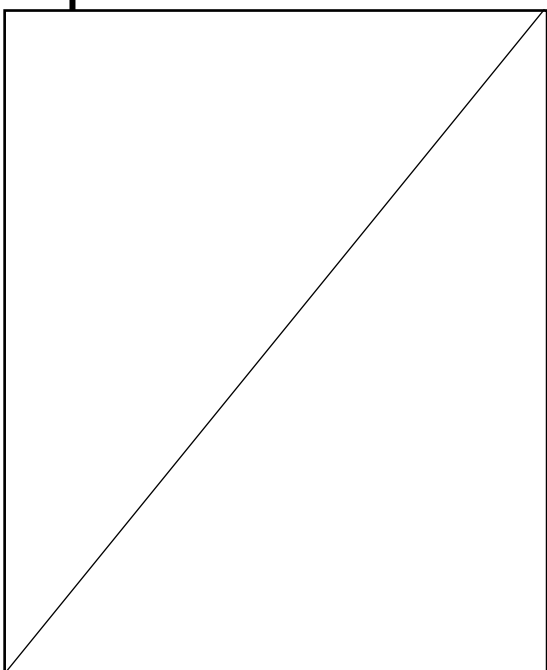


図 1 https://www.si.edu/object/dutch-franciscan-monastery:fsg_S2007.7 accessed 02 April 2022